

▼「現代宗教研究」第十五号を、このたび発行いたしました。本号は、第十三回中央教化研究会議の報告を中心に、研究講座の内容及び研究ノートを掲載いたしました。教化の研究と実践の上で、ご参考にしていただければ幸いです。

▼現代宗教研究所は、機構改革にともない宗務総長の直属機関として、日蓮主義の研究をはじめ現代宗教の実態や日蓮宗の歴史と将来の展望を明らかにする研究調査に取組みつつ、その成果を宗門行政に反映してゆく態勢になりました。また、研究誌の発行と教材資料の作成に関しても明確に規定されることになりました。

▼現宗研は、日蓮聖人に直参し現代に正法を活現する研究機関の立場を堅持しながら、主体的に研究を持続させ、教化本位の教団確立に研究面から寄与し、研究の自由と信仰教説の現代的創造をめざしたい、と念願しています。「夫れ一切衆生の尊敬すべき者三つあり。所謂主師親これなり。又習学すべき物三つあり。所謂儒、外、内これなり。」開目抄。日蓮聖人七百遠忌ご正當に際り、私たちはこの指針に導かれて研究活動を推進してゆく誓願をあらたにしようではありませんか。

▼本号に、中濃教篤現宗研顧問が研究講座で発表した創価学会問題の論文を掲載しました。創価学会における信仰面の誘法性のもとより、「池田本仏論」の破綻や数々の社会

的不正が白日の下にさらされています。日蓮宗としては、破邪顕正の立場に立って正信覚醒への努力を展開すべき時でありましょう。本稿がその参考になれば幸いです。また、本誌と同名の宗教資料が創価学会による宗教界工作のために発行されたダミ誌であり、その中心人物が電話盗聴問題をはじめ創価学会の不正を実行してきた謀略組織によるものであったことも明るみ出しました。それと本誌とはまったく関係ありません。「現代宗教研究」は、日蓮宗現代宗教研究所の刊行物であり、同一の名を勝手につけることは道義上許されることはありません。この点、くれぐれもご理解の上、まちがわぬよう念告しておきたいと思えます。

▼研究ノートは、吉本前教論文はこれまであまり問題にされなかつたテーマを分析したものです。また、石川教張の論稿は、七百遠忌以後、八〇年代における日蓮主義実践の試案をまとめたものです。

▼本号は、巻末に本誌の総目次を掲載しました。本誌を讀みたいという宗門内外の方々の要望も強く、一部の方々は発送費をそえて申込みれております。これらの熱意ある方々の期待にそうよう充実した研究成果を掲載していきたいと存じておりますので、ご叱正・ご鞭撻の程よろしくお願ひします。